

2017年度（平成29年度）

研究部門名 生物学研究部門

講座名 多様性生物学講座

教員名 土松 隆志

電子メール takashi 理 chiba-u.jp

※メール送信の際は、「理」を半角@に変更してください。

(1) 研究論文などのリスト（印刷中を含む）

	著者・発表者等	タイトル	発表雑誌・会 合等	巻・ 号	頁	発行・発表年 等	掲載論文の DOI (付与されている 場合)
(1)	Ariga, H., Katori, T., Tsuchimatsu, T. , Hirase, T., Tajima, Y., Parker, J., Alcazar, R., Koornneef, M., Hoekenga, O., lipka, A., Gore, M., Sakakibara, H., Kojima, M., Kobayashi, Y., Iuchi, S., Kobayashi, M., Shinozaki, K., Sakata, Y., Hayashi, T., Saijo, Y. and Taji, T.	NLR locus-mediated trade-off between abiotic and biotic stress adaptation in <i>Arabidopsis</i> .	<i>Nature Plants</i>	3	17072	2017	10.1038/nplants.2017.72
(2)	Durvasula, A., Fulgione, A., Gutakerd, R.M., Alacakaptan, S.I., Flood, P.J., Netoa, C., Tsuchimatsu, T. , Burbano, H.A., Picó, F.X., Alonso-Blanco, C., and Hancock, A.M.	African genomes illuminate the early history and transition to selfing in <i>Arabidopsis thaliana</i> .	<i>Proc. Natl Acad. Sci. U.S.A.</i>	114	5213-5218	2017	
(3)	Tsuchimatsu, T. , Goubet, P.M., Gallina, S., Holl,	Patterns of polymorphism at the	<i>Mol. Biol. Evol.</i>	34	1878-1889	2017	

	A.C., Fobis-Loisy, I., Bergès, H., Marande, W., Prat, E., Meng, D., Long, Q., Platzer, A., Nordborg, M., Vekemans, X., and Castric, V.	self-incompatibility locus in 1,083 Arabidopsis thaliana genomes					
(4)	土松隆志	植物はなぜ自家受精をするのか (遺伝子から探る生物進化 5)	慶應義塾大学出版会			2017	
(5)	土松隆志	植物はなぜ自家受精をするのか 一花の性と進化」『科学の最前線を歩く (知のフィールドガイド)』	東京大学教養学部・編白水社			2017	
(6)	土松隆志	「集団ゲノミクスからさぐる植物の進化」	『ライフサイエンス 領域融合レビュー』	6	e006	2017	

(2) 卒業研究、大学院修士および博士論文修了指導人数

- ・ 卒業研究 2 名
- ・ 大学院修士 0 名
- ・ 大学院博士 0 名

(3) 教育業績 (自己申告、テキストの作成など、授業の工夫など)

(4) 国際会議出席と招待リスト

1. Tsuchimatsu, T. “Population genomics reveals the mating system evolution in Arabidopsis” The 5th International Symposium “Frontier Science in Ecology, Genetics and Genomics. 2017 年 5 月 29 日 札幌, 国際シンポジウム 招待講演
2. Tsuchimatsu T., Goubet PM, Nordborg M, Vekemans X, Castric, V “Patterns of polymorphism at the self-incompatibility locus in 1,083 Arabidopsis thaliana genomes, Cold Spring Harbor Asia Conference on Plant Cell and Developmental Biology, 2017 年 5 月 26 日, Suzhou, China, 国際シンポジウム 口頭発表

(5) 新聞や雑誌等で報道された研究成果等（報道媒体，報道年月日，報道内容等）

所属	職名	氏名	報道媒体	報道内容	年度
東京農業大学	教授	太治輝昭ら（論文 Ariga et al の報道）	日経産業新聞 2017年6月1日	「耐乾・耐病性決める遺伝子」	29
東京農業大学	教授	太治輝昭ら（論文 Ariga et al の報道）	農業協同組合新聞 2017年6月10日	「植物の環境適応遺伝子を発見 水を取るか，病害菌から身を守るか」	29
東京農業大学	教授	太治輝昭ら（論文 Ariga et al の報道）	科学新聞 2017年6月9日	「水分取るか病害耐性選ぶか 決定関与の遺伝子発見」	29

(6) 国際並びに国内学会での受賞（賞名，その内容，受賞理由等）

所属	職名	氏名	賞名	備考	年度
千葉大学・融合理工	大学院生	番場大ら	日本進化学会ポスター優秀賞	指導する大学院生を筆頭著者とするポスター発表が，日本進化学会第19回大会においてポスター優秀賞を受賞した。	29

(7) 国際共同研究（共同研究名，研究内容等）

所属	職名	氏名	共同研究名	研究内容	年度
リール第一大学	CNRS Researcher	Vincent Castric博士ら	シロイヌナズナ属における自家不和合性遺伝子座の研究	モデル植物シロイヌナズナおよび近縁種のゲノム解析を通して，自家不和合性遺伝子座の進化過程を解明する	29
チューリッヒ大学	教授	Kentaro Shimizu博士ら	シロイヌナズナ属における花形質の進化に関する研究	モデル植物シロイヌナズナおよび近縁種における生殖システムの進化をゲノムワイド関連解析等から解明する	29

マックス・プランク研究所	グループ・リーダー	Angela Hancock 博士ら	シロイヌナズナ属における集団ゲノム学的研究	モデル植物シロイヌナズナの祖先的系統を用いた、種の起源と進化に関する研究	29
--------------	-----------	-----------------------	-----------------------	--------------------------------------	----

(8) 地域・社会と連携した教育・研究活動, 学会、国、県などへの協力, など

- ・ 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員
- ・ 日本進化学会 広報担当
- ・ 日本生態学会 大会企画委員会 発表編成部会
- ・ アウトリーチ活動: 「若手研究者から学ぶシリーズ 第2回: 生物の進化に法則性はあるのか」
アカデミーヒルズ 会員制ライブラリー 2018年1月10日

(9) 特許 (発明者名, 発明の名称, 出願日, 出願番号, 整理番号等) (現時点で公表できるもののみ)